

【基本的運営方針】 A 優れた作品の収集と保管

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
コレクションの活用状況	コレクションの稼働率	90.0%	91.4%	101.6%	b	館内並びに館外展示(ミギシ・サテライト、道近美、移動美術館)による活用点数は延べ233点。収蔵作品数255点に対する稼働率は91.4%となり、目標を達成した。館内展示では主要な代表作を常時展示しつつ、代表作に関連した素描も積極的に展示することで幅広い作品の活用を図った。また、館外展示では道近美における2回の「近美コレクション」展に出品した。
	所蔵作品を他の美術館企画展で活用					
コレクションの充実度	収集方針に基づき、主体性を持ち積極的に収集活動を行う				b	購入と寄贈はなかったが、晩年の重要な作品《金魚》(個人蔵)の寄託を実現し、今後しばらくは当館において活用可能となったことが大きな成果である。
保管状況の適切さ	適正な保管環境を保持し、必要な調査に基づき措置を行う 計画的に所蔵作品の修復を行う				a	館内リニューアル工事として、展示室照明を調光機能付きのLED照明に更新するとともに、外光対策として展示室に面した窓の紫外線防止フィルムの更新、一部の窓のペアガラスの更新、錠戸の修繕等に取り組み、紫外線・赤外線対策や作品保存に適した照明環境の整備を実施した。また、会議室を展示室に改造する工事を行い、空調設備・消火設備・展示壁面・LED照明器具の設置によって、作品の展示と保全に適した環境を整備した。

【基本的運営方針】 Aの評価

評価	コメント(評価の考え方)
B	コレクションの活用については、年度当初の計画を達成し、充実について重要な作品の寄託を実現した。また、保管環境については、リニューアル工事によって適正な環境の整備を実現した。

【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

## 【基本的運営方針】 B 多彩で特色ある展示活動の充実

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
常設展示の充実度	常設展示観覧者数	8,200人	10,060人	122.7%	b	観覧者数、観覧者の満足度はおおむね目標を達成した。また、リピート率は目標を上回った。 内容面においては、小樽芸術村所蔵の近代日本美術の展示、文化庁の補助を得て市内の小学校4校等と連携したことも向け所蔵品展、北海道の若い作家たちの作品展示など、企画性並びに外部との連携の強化を図った。これらの工夫に対しては、来館者アンケートのコメントから一定の評価を見て取ることができた。
	常設展示観覧者の満足度	85.0%	83.0%	97.6%		
	常設展示のリポート率	25.0%	35.5%	142.0%		
特別展示の充実度	特別展示の観覧者数	3,000人	2,995人	99.8%	b	観覧者数はおおむね目標を達成し、また、リピート率は目標を大きく上回った。一方、満足度は目標値を達成できなかったが、来館者アンケートのコメントは、従来の特別展とは大きく異なる内容(現代音楽家の資料と、三岸作品の展示)であることが高評価と低評価に分かれており、この点が満足度数値の要因と考えられる。なお、昨年度の特別展評価の結果課題となったPRの拡充については、札幌国際芸術祭との連携によりPRの強化を図った。
	特別展示観覧者の満足度	90.0%	69.5%	77.2%		
	特別展示のリポート率	30.0%	54.0%	180.0%		
入館者の拡充	美術館の魅力を広め入館者増につながる取組の実施				b	三岸好太郎以外の作品の展示、所蔵品の魅力をこどもに伝えるための企画、札幌国際芸術祭2017との連携などを通して、従来以上の幅広い層の関心を喚起することに取り組んだ。
展示の状況	展示のねらいが効果的に表現できているか				b	来館者アンケートのコメントには、展示のねらいへの理解が進んでいることがうかがわれ、ねらいは効果的に表現できたと考えられる。
館外展示の充実度	移動美術館入場者満足度	設定なし	設定なし		b	道立近代美術館との共同実施による移動美術館での三岸作品の展示を通して、遠方地域の道民にも作品を紹介した。また、札幌市内中心部の旧三岸好太郎美術館の建築を利用した「北菓楼札幌本館」に、当館所蔵作品を展示する「ミギシ・サテライト」を設置して計画通りに展示替を行い、旅行者を含む幅広い来店者に作品に触れる機会を提供した。
	その他の館外展示の状況					

## 【基本的運営方針】 Bの評価

評価	コメント(評価の考え方)
B	全般的に目標をほぼ達成した。内容面においては、アンケートのコメントより、常設展・特別展ともに企画性並びに外部との連携の強化を図ったことに対する評価がうかがわれた。

## 【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

## 【基本的運営方針】 C 豊かな人間性を育む学習の場と美術情報の提供

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
教育普及事業の充実度	教育普及プログラムの実施数	30回	55回	183.3%	a	教育普及プログラムの実施数、参加者数、満足度はいずれも目標を超える成果をあげた。従来の講演・講座や音楽事業に加え、こども向け展覧会の内容理解を深めるための10種の「鑑賞プログラム」、並びに7月末の二日間にわたる美術館の庭も利用した大人向け・こども向けイベントの実施等が、参加者数の大幅な増加につながったと考えられる。
	教育普及プログラムの参加者数	2,100人	6,975人	332.1%		
	教育普及プログラムの満足度	87.0%	87.3%	100.3%		
	教育普及事業の状況					
美術情報提供の充実度	ARS、図書コーナーの利用者件数	2,100人	4,585人	218.3%	b	図書コーナーの利用者件数と満足度、並びにHPのアクセス件数は目標を達成した。図書コーナーについては、こども向け展覧会の時期には靴を脱いで休憩できるスペースを設置しそこで読書を楽しめるように、また特別展の時期には内容に関連した書籍を増やすなどの工夫を行った。HPにおいては展覧会の紹介ページの内容充実を図り、また、こども向け鑑賞プログラムの結果公開にも活用した。
	ARS、図書コーナーの利用者満足度	75.0%	71.8%	95.7%		
	多くの来館者が利用できる図書コーナーの環境整備・保持					
	HPアクセス件数	106,000件	130,153件	122.8%		
	メールマガジン等発行回数	実施なし	実施なし			
	ソーシャルメディアの投稿数	実施なし	実施なし			
	情報発信の状況					

## 【基本的運営方針】 C の評価

評価	コメント(評価の考え方)
B	従来の教育普及プログラムに加え、こども向け展覧会のための鑑賞プログラムや、夏の大人向け・こども向けイベント等の新たな取り組みを行うことによって、年度当初の目標を上回る結果を出すことができた。

## 【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

## 【基本的運営方針】 D 活動の基礎となる調査・研究の推進

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
調査・研究の充実度	学芸員による調査報告				b	学芸員による調査は、主に所蔵品に関する解説執筆や講話、特別展の企画内容、小樽芸術村の所蔵品や若い作家を紹介する展覧会の企画と図録制作、子ども向けの鑑賞プログラムの企画、並びに三岸好太郎に関する外部からの専門的な問い合わせへの対応等に活かされた。また、学芸員がこれまで行ってきた三岸好太郎以外の作家作品調査を、近代美術館編集『北海道美術50』や『紀要』等への執筆として活かした。二次資料では、主として他館との資料交換制度で寄贈された図録や機関誌等を調査研究に活用した。
	二次資料の状況					

## 【基本的運営方針】 Dの評価

評価	コメント(評価の考え方)
B	調査研究が活かされる最も主要な機会である展覧会のスケジュールに沿って、おおむね年度当初の計画通りに進めることができた。また、学芸員が蓄積してきた三岸好太郎以外の調査についても、近代美術館編集の書籍や『紀要』に活かすことができた。

## 【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

## 【基本的運営方針】 E 地域文化の振興

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
地域の関係機関との連携状況	ボランティア団体等の主体的な事業の参加者数	350人	555人	158.6%	b	ボランティア団体等の主体的な事業の参加者数については、目標を大きく上回った。また、ボランティアが活動しやすい場の提供に関する取組では、活動にあたって随時適切な指導助言を行うように努めた。地域におけるその他の連携としては、北海道教育大学並びに札幌大谷大学の音楽科卒業生によるミニ・リサイタル、近隣の菓子店の協力を得たオリジナル・スイーツの企画等を行った。
	ボランティアが活動しやすい場の提供					
	地域と連携した取組の状況					
学校との連携の状況	キャンパスパートナーシップのメンバー校数	3校	3校	100.0%	b	出張アート教室並びに指導者研修については今年度は要望がなかった。学校教育活動への対応数は目標を達成した。なかでも三岸好太郎の出身校である札幌南高校の生徒が、当館作品を鑑賞して制作した絵画と書の展示は、授業における美術館の活用方法として特色のあるものであった。
	出張アート教室の延べ参加者数	設定なし	設定なし			
	指導者研修の延べ参加者数	設定なし	設定なし			
	学校教育活動への対応数	5件	6件	120.0%		
	参加者・利用者満足度					

## 【基本的運営方針】 Eの評価

評価	コメント(評価の考え方)
B	ボランティア団体、地域、学校等との連携については、年度当初の目標を達成した。

## 【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E

## 【基本的運営方針】 F 良好な滞在環境の提供

評価項目	評価指標	指標値	実績値	達成率	評価	コメント(評価の考え方)
附帯施設の 充実度	レストラン・喫茶利用者の満足度	77.0%	65.5%	85.1%	c	喫茶並びにミュージアムショップの満足度については、おおむね目標を達成した。また、事業者と協力してのサービス向上の実践としては、喫茶運営者が町内会や小規模店と独自のネットワークに基づき販売品を工夫するにあたって適宜助言を行ったほか、喫茶の運営者の協力を得てオリジナル・スイーツの企画を実施した。
	ミュージアムショップ利用者満足度	77.0%	65.5%	85.1%		
	事業者と協力してのサービス向上の実践					
館のホスピタリティ	館内スタッフの対応に関する利用者の満足度	90.0%	86.5%	96.1%	b	館内スタッフのうち利用者対応の機会が最も多い受付と監視は、委託業者が行っている。それらのスタッフに対する満足度はおおむね目標を達成しており、来館者アンケートのコメントにおいても高い評価が示されている。また、ホスピタリティの向上に向けて、アンケートや利用者からの意見、委託業者からの意見等を積極的に収集し、迅速で適切な対応に努めた。
	ホスピタリティ向上に向けた取組み					
施設環境の 保持	施設内外の環境への満足度	87.0%	78.4%	90.1%	b	施設内外の環境への満足度については、おおむね目標を達成した。また、施設安全性保持のための措置に関しては、リニューアル工事にあたって作品鑑賞と作品保護の両方を向上させるための計画を立て実施した。
	施設安全性保持のための必要な措置					

## 【基本的運営方針】 Fの評価

評価	コメント(評価の考え方)
B	附帯施設の充実度、館のホスピタリティ、施設環境の保持について、おおむね目標を達成することができた。

## 【評価の評語】

評価の結果	評価項目	基本的運営方針
優れた成果を上げている	a	A
目標(計画)を達成している	b	B
目標(計画)をほぼ達成している	c	C
目標(計画)を達成できていない(努力が必要)	d	D
方法に再検討が必要	e	E